

※PC板使用时

工 事 写 真 集

設置者名

設置場所

写真（1）【着工前】

- ※ 浄化槽設備士が浄化槽工事業者登録票を持っているところ。
- ※ 施工位置及び全景が把握できること。

- * ボードに何々邸着工前と明記すること
- * 設備士の顔が確認できること

施工業者名

浄化槽設備士

工 事 写 真 集

設置者名

設置場所

写真（１）【着工前】

- ※ 浄化槽設備士が浄化槽工事業者登録票を持っているところ。
- ※ 施工位置及び全景が把握できること。

* ボードに何々邸着工前と明記すること

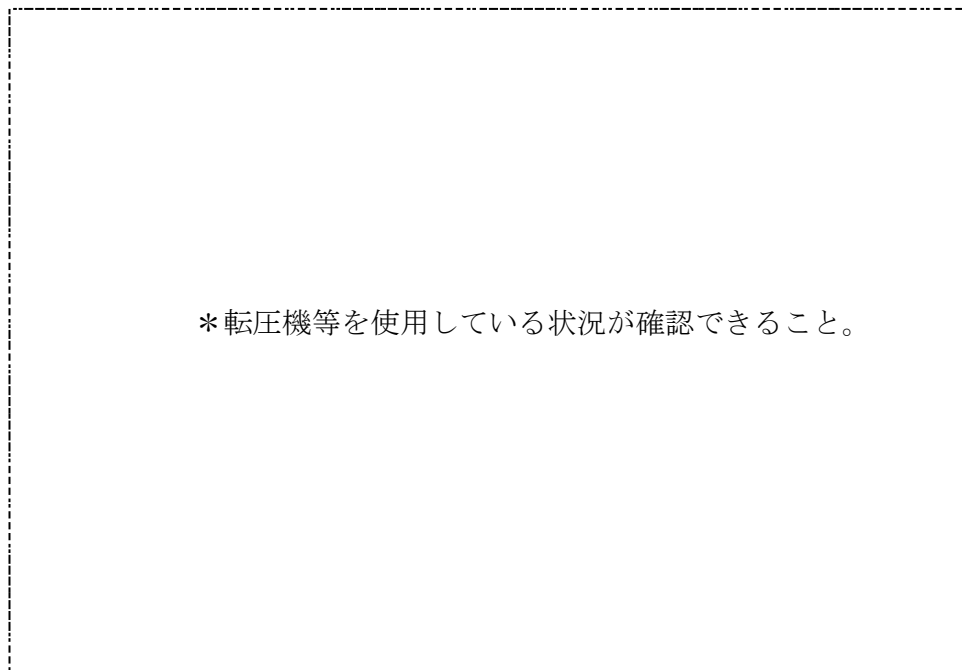
* 設備士の顔が確認できること

施工業者名

浄化槽設備士

写真（２）【 砕石 ・ 栗 基礎転圧工】

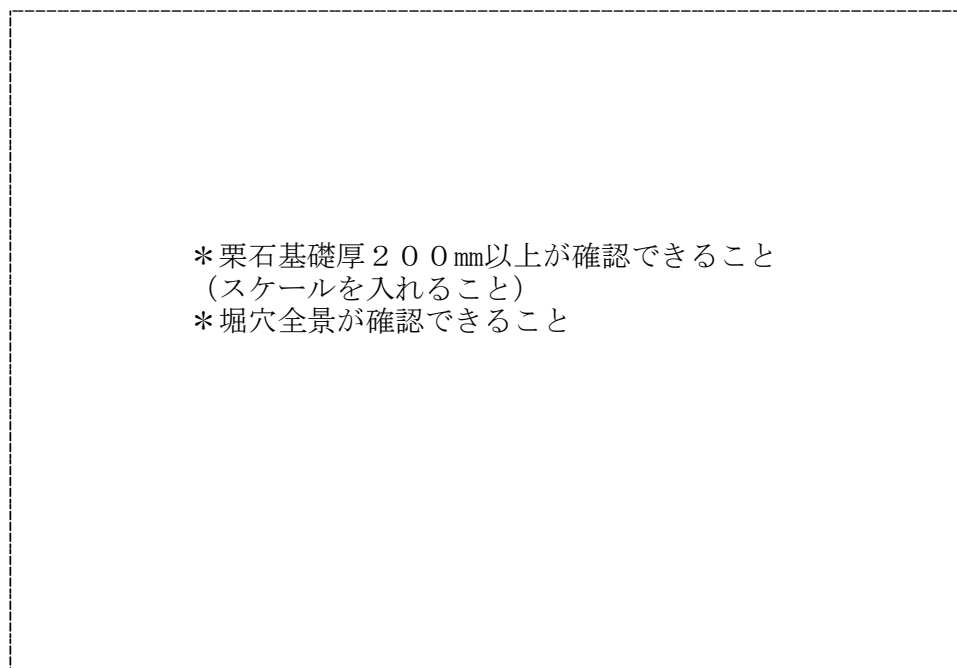
※ 転圧機等を使用している状況が確認できること。



写真（３）【砕石 ・ 栗 基礎工】

※ 基礎厚 200mm が確認できること。（スケールを入れること）

※ 堀穴全景が確認できること。



写真（２）【 砕石 ・ 栗 基礎工】

※ 基礎厚 150mm が確認できること。

* 栗石基礎厚 150mm 以上が確認できること
(スケールを入れること)

写真（３）【配筋工】ピッチと長さが確認できる写真

※ 配筋全景が確認できること。

※ 鉄筋被り（スペーサー等）が確認できること。

* 全景が確認できること

* 底版配筋ピッチの 200mm 以内が確認できること
(スケールを入れること)

* 上部車庫等の荷重がかかる場合はダブル筋が
確認できること

写真（４）【コンクリート基礎工】

※ 全景及び基礎厚 100mm ・ 150mm が確認できること。

* 上部荷重がかからない場合は基礎コンクリート厚が100mm以上が確認できること（スケールを入れること）

* 上部車庫等の荷重がかかる場合は基礎コンクリート厚が150mm以上の写真（スケールを入れること）

写真（５）【コンクリート打設状況】

※ 鉄筋が確認できること。

* 全体の半分程コンクリートを流し込んだ状態で撮ること

写真（４）【PC板据付工（吊り込み前）】

- ※ 地上に置いた状態でPC板のメーカー名・寸法・品番が確認できること。

* PC板のメーカー名・寸法・品番が確認できること

写真（５）【PC板据付工（吊り込み後）】

- ※ 据付後、水平器等でPC板の水平設置が確認できること。
- ※ 砕石だけで水平が取りづらい場合は、砕石上面に空練りモルタルを敷いて微調整してよい

* 据付後、水平器等でPC板の水平設置が確認できること。

* 砕石だけで水平が取りづらい場合は、砕石上面に空練りモルタルを敷いて微調整してよい

写真（6－1）【据付工】

※ 浄化槽の型式及び据付機械が確認できること。

* 浄化槽本体は全体と型式が確認でき、
据付機械が写っていること

写真（6－2）【据付工】

※ 浄化槽設備士が水張りし、水平を確認していること。

* 設備士の顔が確認できること
* ホース及びレベルが確認できること

写真（7-1）【埋 戻 工】

- ※ 検測定規等を置いて、一層の仕上厚が確認できること。
但し、上記施工方法が困難な場合は、別途協議する。

- * 全景が確認できること
- * 突き棒及びホースが確認できること

写真（7-2）【埋 戻 工】

- ※ 埋戻し完了で浄化槽埋設状況が全景的に把握できること。

- * 全景が確認できること
- * 埋め戻し材料が確認できること

写真（８－１）【スラブ配筋工】

- ※ 配筋全景が確認できること。
- ※ 鉄筋被り（スペーサー等）が確認できること。

- * 上部スラブ筋ピッチの200mm以内が確認できること（スケールを入れること）
- * 上部車庫等の荷重がかかる場合はダブル筋の写真

写真（８－２）【スラブコンクリート工】

- ※ 全景及びスラブ厚 100mm ・ 150mm が確認できること。

- * 上部荷重がかからない場合は上部スラブ厚が100mm以上あること（スケールを入れること）
- * 上部荷重がかかる場合は上部スラブ厚が150mm以上あること（スケールを入れること）

写真（9）【嵩上げ状況】

※ 嵩上げ高が確認できること。

* 概ね300mmまでが確認できること
(それ以上はピット構造とすること)

* ボードに何々邸および高さ何mmと明記すること

写真（10）【排水設備】

※ 配管及び柵据付状況

※ 管基礎と柵基礎が確認できること。

* 雨水管・足洗い場等の接続は認めない

* クラッシュラン等、柵の基礎が確認できること

写真（10-2）【排水設備】

※ 配管及び柵据付状況

*柵の間隔は直線部では原則として、管径の
120倍以下とする

写真（10-3）【排水設備】

※ 配管及び柵据付状況

※ 全景が確認できること。

*浄化槽本体の流入および放流部に柵を設置すること

写真（11）【ブローラー設置状況】

※ 接地工事（アース）が必要な場合は、確認できること。

*ブローラーの基礎は100mm以上のコンクリート造りとする（穴あきブロックは認めない）

*コンセント、アースの取り付けが確認できること

*ボードに何々邸と明記すること

写真（12）【竣工】

※ 浄化槽設備士が入っていること。

※ 浄化槽設置が確認できること。

*ボードに何々邸と明記すること

*設備士の顔が確認できること

写真（13-1）【柱筋】

※ 全本数（フープ筋含む）が確認できること。

* 5～7人槽は4本以上が確認できること
8～10人槽は6本以上が確認できること

写真（13-2）【柱筋】

※ フープ筋ピッチが確認できること。

* フープ筋のピッチは概ね150mmが確認
できること（スケールを入れること）

写真（14-1）【その他】

※ 工事で必要な写真または、指摘事項写真

項目：

*臭突管の位置が確認できること
立ち上げていない場合は、キャップ止め
をしておくこと

写真（14-2）【その他】

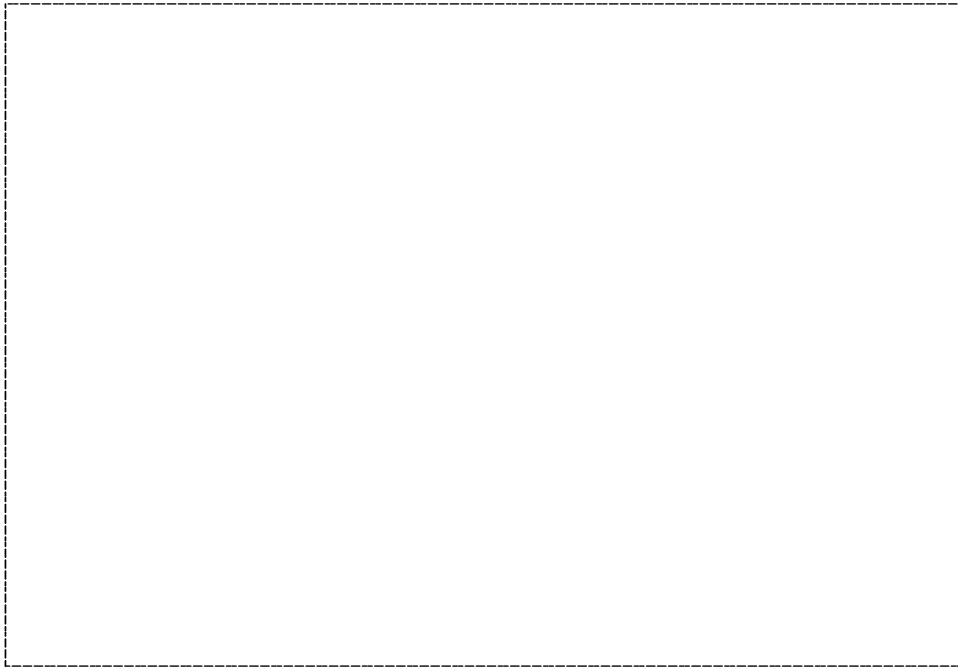
※ 工事で必要な写真または、指摘事項写真

項目：

写真（14-3）【その他】

※ 工事で必要な写真または、指摘事項写真

項目：

A large, empty rectangular box with a dashed border, intended for the user to upload a photograph related to the project or a specific issue.

写真（14-4）【その他】

※ 工事で必要な写真または、指摘事項写真

項目：

A large, empty rectangular box with a dashed border, intended for the user to upload a photograph related to the project or a specific issue.